

# Y I A 会員だより 2023年10月号

発行；吉野川市国際交流協会・広報部(Tel22-2271,Fax22-2270)

第226号 ホームページ URL <https://yia2020.net/>



## 【10月以降の活動予定他】

◎ 浴衣・着物着付け体験会 10月8日(日)13:30～  
場所：文化研修センター 参加費：500円  
申し込み先：瀬尾規子、萩森健治

## ◎国際交流バスツアー 11月19日(日)

行先：奈良（東大寺、奈良公園ほか）  
参加費：3,000円の予定  
申し込み先：瀬尾規子、三原敦子

### ◆ブドウ狩り

平田仁子

9月3日(日曜日)山川ぶどう園で、日本語教室の生徒・講師・生徒の友人・YIAの会員等、総勢32名がブドウ狩りを楽しみました。

今年は例年よりも気温が高く、雨も多かったのですが、とても大きくて甘いぶどうがたくさん実ったそうです。

まず、袋に入ったぶどうをさわって品定めし、つるを切ったぶどうの房を冷たい氷の入った桶の中に入れて味わいました。

とても甘くておいしかったので、2・

3房をぺろりと食べてしまう人もいたほどでした。

昼間は気温がとても高かったのですが、ぶどうのつるの下には涼しい風が吹いて、みなさんリラックスした気分而异文化交流を楽しみながら有意義な一日を過ごしました。



### ◆初めての俳句・書道体験

萩森 健治

残暑厳しい9月17日(日)午後、鴨島公民館で「俳句・書道ワークショップ」を開催し、日本語教室の受講生などが初めて俳句・書道を体験しました。

俳句講師は上窪青樹さんと則子さん夫妻、書道講師は吉野美苑さんでした。参加したのは、ベトナム、インドネシア、ネパール、中国出身の受講生13名、講師とYIA会員など13名、計26名でした。

最初に、上窪先生から俳句とはどんなものかについて説明があり、テーマの選び方、秋の季語のいくつかの事例、俳句の作り方など易しく指導して頂きました。そのあと、受講生らは講師やYIA会員の指導を受けながら、俳句作りに取り組みました。最初は、困ったような表情で四苦八苦していましたが、講師の的確なアドバイスを受けてから、楽しそうに俳句を作っていました。でき上ったら吉野先生の書のお手本を見て半紙に墨で書く練習。皆さん初めてとは思

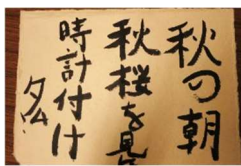
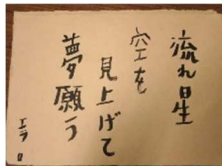
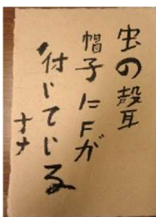
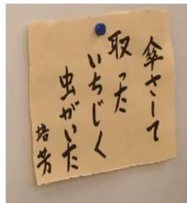
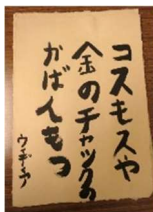
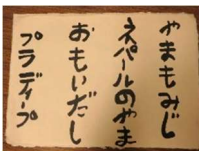
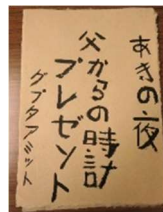
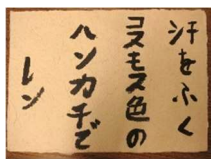




えないほど上手。そして竹から作られた和紙の色紙に清書。清書した作品は前のボードに展示され、上窪先生がそれぞれの作品の講評をされました。

外国人受講生にとって初めての体験でしたが、自分の気持ちを素直に表現した個性豊かな俳句が完成しました。また、書道の腕前もなかなかのものでした。なお、作品は10月に鴨島公民館に展示されるとのことです。

どの俳句も傑作ぞろいですが、いくつかの俳句を紹介します。



## ◆グローバルセミナーに参加して 浅野充代

9月30日、吉野川市ALTのロビンさんの講演を聞きました。フロリダの夏は日本と同じく蒸し暑いけれど、美しいビーチやディズニーリゾート等が有名な観光地であること、ギリシャ料理が美味しいこと、ギリシャ人ダイバーによって収穫される海綿スポンジが有名であることなどが映像と共に紹介されました。

また、ロビンさんは大学で言語と社会の関わりを勉強しており、コミュニケーションをとるために必要な言語の習得にはまず



endurance《忍耐》である、という考えには「全くその通り！」という声が出ました。

さらに、コミュニケーションに関して high または low context という話題が出ました。フロリダでは幾つかの文化が交錯しているので、きちんと言葉で示す必要があるが、日本では何となくで意味が通じることでした。

これについて質問すると、例えば「Your feet smell.」とはっきり言われてきたがこれは正直傷つく、日本ではもう少しオブラートに包んだ言い方をしてくれるのに、というロビンさんの気持ちも聞きました。

やはり場により一長一短あるわけで、多様な文化に触れる中で、根気強くコミュニケーションを取る方法を学んでいく必要がある、と感じました。

